

～特別奉納公演～

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 伊勢神宮

みんなで楽しむ「バリアフリー文楽」

「二人三番叟」

豊竹英太夫、鶴澤清介、吉田勘市ほか

「義経千本桜」

道行初音旅

竹本文字久太夫、鶴澤藤蔵、桐竹勘十郎ほか

総合プロデューサー：中村雅之



2017年3月11日(土)～14日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演13:00

[夜の部 (11日・12日)] 開場15:30 開演16:30

[夜の部 (13日・14日)] 開場17:30 開演18:30

※雨天荒天の場合は中止となります。中止のご連絡は、にっぽん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com>) でお知らせします。

※当日、外宮駐車場は利用できません。会場周辺には有料駐車場はございますが可能な限り公共交通機関をご利用ください。

※会場は屋外のため、防寒対策の設備はございません。防寒には、十分ご注意ください。

※伊勢神宮城内および会場内での飲食は禁止です。

会場：伊勢神宮 外宮特設舞台

入場無料 (要整理券)

整理券申込方法 (2月15日申込メ切。申込者多数の場合は抽選となります。)

往復はがきに以下をご記入の上、にっぽん文楽プロジェクトへお申込みください。

- (1) お名前 (2) ご住所 (3) お電話番号
- (4) ご希望の枚数 ※4枚まで
- (5) 第1希望の公演
- (6) 第2希望の公演
- (7) 第3希望の公演

※右の表から記号をお選びください

	13:00開演	16:30開演	18:30開演
11日(土)	A-1	A-2	-
12日(日)	B-1	B-2	-
13日(月)	C-1	-	C-2
14日(火)	D-1	-	D-2

ご応募先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-31-8 高田馬場ダイカンプラザ420 にっぽん文楽プロジェクト 伊勢公演申込係

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト (TEL 03-6233-8948、平日10:00～17:00) <http://www.nipponbunraku.com>

写真：青木信二

主催：日本財団 制作：一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：神宮司庁 協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益社団法人 伊勢市観光協会、伊勢市障害者団体連合会、

クラブツーリズム株式会社、近畿日本鉄道株式会社 後援：伊勢市

みんなで楽しむ「バリアフリー文楽」- 伊勢神宮特別奉納公演

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師 / 東京芸術文化評議会専門委員)

より多くの人たちに、「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と2015年から始まった「にっぽん文楽」の公演。舞台は、移動自由の組立て式ですが、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的なもの。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。初めて目にした人からは、「これほど、すべてに本格的とは思わなかった」と驚きの声が上がります。東京・六本木ヒルズ、大阪・難波宮、東京・浅草観音と回り、今回は、日本文化の原点とも言える伊勢神宮の外宮前で開催されることになりました。

「太夫」は4月に六代豊竹呂太夫を襲名する豊竹英太夫、「三味線」は鶴澤清介、「人形」は桐竹勘十郎と豪華な顔ぶれが揃いました。曲目は、「奉納公演」に相応しく祝儀物の「二人三番叟」、桜の名所・吉野山を舞台とした華やかな名作「義経千本桜 道行初音旅」の二つ。短い演目ですから、あらかじめ粗筋を頭に入れておけば、初めての人でも、心に余裕を持って見ることが出来ます。

伊勢の神々に文楽をご覧いただく「奉納公演」ですので、「**入場無料の招待制**」としました。応募要項に従って、ぜひご応募ください。特に、障がいを持った方たちにも楽しんでいただきたい、と聴覚障がいの方には「スマートフォン」を使った文字情報の配信、視覚障がいの方には「**イヤホンガイド**」などを導入した「バリアフリー文楽」としました。

「にっぽん文楽」の最終年である2020年には、「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。それに併せ様々な文化プログラムも開催されます。この機会に、みんなで文楽をお楽しみいただけるよう願っています。

バリアフリーのサポート態勢

- 視覚障がい者向け 点字チラシ、点字パンフレット
- 聴覚障がい者向け 上演時字幕配信 (タブレット端末使用。事前予約制。)
- 視覚障がい者向け イヤホンガイド
- 途中入退場可 ※その他ご要望があれば事前にお問合わせください。

演目・出演

ににんさんばそう

「二人三番叟」

太 夫 / 豊竹英太夫、豊竹芳穂太夫、豊竹巨太夫
三味線 / 鶴澤清介、竹澤團吾、鶴澤寛太郎、鶴澤清允
人 形 / 三番叟: 吉田勘市、三番叟: 吉田一輔

よしつねせんぼんざくら

「義経千本桜 道行初音旅」

太 夫 / 静御前: 竹本文字久太夫、狐忠信: 豊竹芳穂太夫
ツレ: 竹本小住太夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤寛太郎、鶴澤清允
人 形 / 静御前: 吉田勘彌、忠信実: 源九郎狐: 桐竹勘十郎

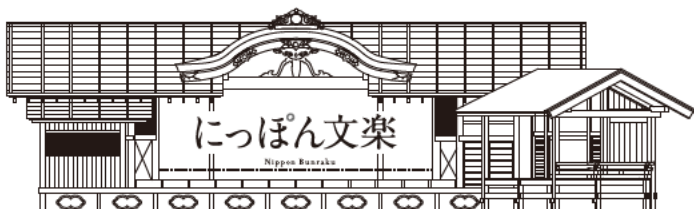
「解説」

太夫: 豊竹芳穂太夫 / 三味線: 鶴澤寛太郎 / 人形: 吉田箕紫郎

人形部: 桐竹紋吉、吉田箕太郎、桐竹勘次郎、桐竹勘介、
吉田箕悠、桐竹勘昇
囃 子: 望月大明蔵社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ビューシーウエスト
組立施工: 葉の実建築工房 / 帳幕製作・施工: 宮本卯之助商店
運営: ミュージメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン
アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店) / グラフィックデザイン: みやはらたかお
アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628)
総合プロデューサー: 中村雅之



演目解説

「二人三番叟」

国家安穩・五穀豊穡を祈り、能・文楽・歌舞伎などが生まれる以前から、日本の芸能の中で演じられ続けて来た「翁芸」の流れの中に位置する演目。文楽の「寿式三番叟」では、千歳、翁、二人の三番叟が順番に登場して舞うが、「二人三番叟」は、その中から三番叟を抜粋して演じるもの。三番叟は、種まき、実りなど稲作の様子を舞踊化したもの。性格の違う二人の三番叟が、鈴などを手に、変化にとんだ動きを見せる。「翁芸」が本来的に持つ荘厳さの中に滑稽味が加わる小品だ。

「義経千本桜 道行初音旅」

全体としては、平家との戦いで大きな功績があったにも関わらず兄・頼朝に疎まれてしまった源義経が、都落ちして行く物語が大きな柱としてある。しかし、それぞれの段は、「オムニバス形式」で、義経の周辺にいる人々を中心に展開して行く。

「道行初音旅」は、義経の忠臣・佐藤忠信に化けた源九郎狐に義経と愛妾・静御前がからみ、桜満開の吉野山を背景に華やかに物語が展開される。

「院 (後白河法皇)」を操る悪漢・藤原朝方は、「初音の鼓」を下賜させる。鼓を「打て」に、頼朝を「討て」という意味が込められていたのだった。義経と頼朝との溝を広げようと画策しているのだ。しかし、義経は鼓を受け取りながらも、「けて討つまい」と心に決めていた。それでも状況は悪化し、義経一行は追い詰められ、落ち延びることになる。伏見で、愛妾・静御前に「初音の鼓」、佐藤忠信には愛用の鎧を与え別れる。

「今回上演される「道行初音旅」は、この後から始まる」

義経が、吉野山に隠れていると聞いた静御前は、佐藤忠信 (実は源九郎狐) を伴い初春の山道を急ぐ。途中、忠信を見失った静が、義経のことを思い鼓を打っていると、どこからともなく佐藤忠信が現れた。忠信は、義経から賜った鎧を恭しく取り出す。忠信は、この鎧を賜ったのも、兄・継信が屋島の戦いで討ち死にしたことがあってこそ、と語り涙する。再び二人は、峠を越え、吉野山にたどり着く。

